

令和3年3月 土木工事共通仕様書（案） の改定について

（前）国土交通省 大臣官房 技術調査課 事故分析係長 やまぐち まさあき 山口 正明

1. はじめに

土木工事共通仕様書は、国土交通省の地方整備局等が発注する工事において、工事請負契約書及び設計図書の内容について、統一的な解釈及び運用を図るとともに、その他必要な事項を定めることにより、契約の適正な履行の確保を図るために策定しています。

また、土木工事共通仕様書は、各建設作業の順序、使用材料の品質、仕上げの程度、施工方法等、工事を施工する上で必要な技術的要求、工事内容のうち、あらかじめ定型的な内容を盛り込んだものです。

令和3年3月版土木工事共通仕様書（案）の主な改定内容を以下に紹介します。

2. 令和3年3月版の主な改定内容

(1) 紙出力と電子データの二重提出の解消

これまで、請負代金内訳書は紙出力に捺印したものと電子データの両方を提出することになっていましたが、押印原則の見直しの動きや電子契約システムの本格運用により、電子データの提出のみとすることで二重提出の解消を図りました。

改定前（令和2年3月版）	改定後（令和3年3月版）
請負代金内訳書の提出 受注者は、請負代金内訳書を監督職員へ提出する際には、紙で出力した請負代金内訳書に捺印したもの、及び入力済みの電子データが保存された電子媒体の両方を監督職員を経由して発注者に提出しなければならない。	請負代金内訳書の提出 受注者は、請負代金内訳書を電子データで作成し、発注者に提出しなければならない。

また、工事完成図についても電子成果品及び紙の成果品を作成及び納品となっていました。電子成果品を作成及び納品しなければならないこととしました。

工事管理台帳及び成果品についても、原則として、電子データとして作成し納品することとしました。

改定前（令和2年3月版）	改定後（令和3年3月版）
電子成果品及び紙の成果品 受注者は、「電子納品等運用ガイドライン【土木工事編】」に基づいて電子成果品及び紙の成果品を作成及び納品しなければならない。	成果品 受注者は、「電子納品等運用ガイドライン【土木工事編】」に基づいて、原則として、電子成果品を作成及び納品しなければならない。

(2) 関係法令や各種基準類等との整合

土木工事共通仕様書で引用している各種技術基準類のうち、前回の改定から今回の改定に至るまでの間に改定されているものなどに関して、改定年月の修正や共通仕様書における規定との整合を

表-1 改定された主な技術基準類

No.	発行機関	対象技術基準名	改定年月
1	河川ポンプ施設技術協会	揚排水ポンプ設備技術基準・同解説	令和2年1月
2	日本道路協会	道路標識設置基準・同解説	令和2年6月
3	日本道路協会	杭基礎設計便覧	令和2年9月
4	日本道路協会	杭基礎施工便覧	令和2年9月
5	日本道路協会	鋼道路橋施工便覧	令和2年9月
6	日本道路協会	コンクリート道路橋設計便覧	令和2年9月
7	日本道路協会	コンクリート道路橋施工便覧	令和2年9月
8	日本道路協会	道路トンネル維持管理便覧（本体工編）	令和2年8月
9	厚生労働省	ずい道等建設工事における粉じん対策に関するガイドライン	令和2年7月

確認し、必要な変更を行いました。

なお、反映した各種基準類は、表-1のとおりです。

その他、現場の実態や書類の簡素化等の観点で踏まえ、共通仕様書の記載内容について変更を行いました。

(3) 土木工事施工管理基準等の改定

ICT技術の全面的な活用を推進するため、施工履歴データや3次元データによる出来形管理基準の規定を追加しました。

具体的には、橋梁下部の橋台躯体工及び橋脚躯体工において、従来管理のほかに、「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）構造物工編（試行）」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができることとしました（表-2）。

また、フィルム写真の使用状況について各地方整備局等の実態を踏まえ、フィルム写真を用いた場合の写真管理基準を廃止しました。

その他、既存の出来形管理要領（案）から「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）」への再編（スリム化）に伴う要領名称の改定を行いました。

3. おわりに

令和3年3月に改定した土木工事共通仕様書

表-2 橋台躯体工における出来形管理基準

工種	測定項目	規格値	測定基準
橋台躯体工	基準高	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。なお、従来管理のほかに「3次元計測技術を用いた出来形管理要領（案）構造物工編（試行）」で規定する出来形計測性能を有する機器を用いることができる（アンカーボルト孔の鉛直度を除く）。
	厚さ	-20	
	天端幅 w_1 （橋軸方向）	-10	
	天端幅 w_2 （橋軸方向）	-10	
	敷幅 w_3 （橋軸方向）	-50	
	高さ h_1	-50	
	胸壁の高さ h_2	-30	
	天端長 l_1	-50	
	敷長 l_2	-50	
	胸壁間距離 l	±30	
	支間長及び中心線の変位	±50	
の箱抜き規格値	支承部アンカーボルト	計画高	+10～-20
		平面位置	±20
	アンカーボルト孔の鉛直度	1/50以下	

（案）は、国土交通省ホームページに掲載していますので、ご覧ください（https://www.mlit.go.jp/tec/tec_tk_000052.html）。

今後とも、各種基準類の改定や技術動向、社会的動向等を踏まえて、適切な土木工事共通仕様書の改定に努めてまいります。